

まち歩き ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会「文化財まち歩き」開催

今年、建碑 60 周年を迎える七堂伽藍跡碑の記念事業に協賛して「文化財まち歩き」を開催！

国指定史跡下寺尾官衙遺跡群を中心に周辺文化財をまち歩きでめぐります。

■第1回 日時：11月4日（土） 9:30～12:00

（香川駅～下寺尾官衙遺跡群～香川駅）

■第2回 日時：11月18日（土） 9:30～12:00

（香川駅～下寺尾官衙遺跡群～民俗資料館）

《各回共通》

集合場所：JR 相模線 香川駅改札口横

定員：各回先着 20 名（資料代 200 円/中学生まで無料）

申込：10月18日（水）から、第1回は10月30日（月）まで、

第2回は11月13日（月）まで

申込方法：ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の会・加藤

電話 090-5313-3755 または メール k-mikio51415@bloom.ocn.ne.jp まで



トピックス ちがさき丸ごとふるさと発見博物館友の会 第2回総会を開催

9月14日（木）、ちがさき丸ごと博物館友の会の第2回総会が開催されました。

昨年9月に設立された、ちがさき丸ごと博物館友の会は、「ちがさき丸ごと博物館講座（基礎編）」の修了生による同窓会的組織で、ちがさき丸ごと博物館事業を支える担い手となって活動を展開しています。昨年43名で発足した同会も9月現在で、会員数66名と輪を広げ、ちがさき丸ごと博物館の事業への支援以外にも、自主的に講演会や学習会、散策を企画し、会員同士の交流を深めています。今回開催された第2回総会には、ちがさき丸ごと博物館の名誉館長の服部市長と館長（社会教育課長）も駆けつけました。また、当日は、『丸博』の試みの実践の記録」と題して、社会教育課・高橋知氏による記念講演が行われ、ちがさき丸ごと博物館のこれまでの歩みが語られました。



ちがさき丸ごとふるさと発見博物館って何？

茅ヶ崎市の全域を屋根も壁もない博物館と見立てて、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材など、「このまち」らしさをもついろいろな事柄を幅広く選び出し、これらを都市資源と呼ぶことにしました。これらの都市資源を調査・研究し、それぞれがもっている意味や魅力を広く市民に周知する一方、それぞれを関連付けて散策や各種イベントなどで活用を図ることにより、茅ヶ崎を改めて知り、茅ヶ崎を愛する心を育み、ひいてはまち全体の活性化を図ろうとするものです。そして、都市資源は地域のかげがえのない宝物として、地域により保護され育てられていくことになります。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考えと力で運営していく姿勢を特に重要視しています。

編集後記

平成29年度もあっという間に上半期が終了し、一気に秋が深まってきました。

今号で注目して取材した都市資源は、約6.5km離れています。同じ市内でも、たったこれだけの距離で雰囲気が大きく変わる茅ヶ崎を改めて感じた今回の取材。市内全域を博物館と見立てるちがさき丸ごと博物館の“展示物”の日々の変化を感じながら、下半期へ突入です。（広報部会一同）

発行・編集 ちがさき丸ごとふるさと発見博物館アクションプロジェクト 広報部会（印刷協力 湘南ちがさき屋）
〒253-8686 茅ヶ崎市茅ヶ崎 1-1-1 茅ヶ崎市教育委員会教育推進部 社会教育課文化財保護担当・社会教育担当
Tel 0467-82-1111 E-mail: shakaikyoku@city.chigasaki.kanagawa.jp

バックナンバーは

屋根も壁もない・・・市内が全部博物館・・・



ふるさと発見
ちがさき丸ごと博物館

（愛称は「ちがさき丸ごと博物館」）

秋編

都市資源取材特集号！

～ 秋のちがさき 南へ北へ ～



（県立茅ヶ崎里山公園にて 写真提供 坂井源一氏）

秋の陽気に誘われて・・・

前号（季刊誌第32号）からスタートした「都市資源取材特集」の第2弾。ちがさき丸ごと博物館アクションプロジェクト・広報部会が、市内にある都市資源に焦点をあて、それらに関わる方々にご協力いただき、その魅力を掘り起こしています。

今号では、茅ヶ崎南部と北部にある都市資源をご紹介します。南北で大きく変わる茅ヶ崎の風景をたずねて、普段なかなか訪れないところへ足をのばしてみませんか？

第33号

2017. 10. 1



注目の都市資源！！

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館では、文化や自然、産業、人材など市内のさまざまなまちの宝ものを「都市資源」と呼んでいます。今回は茅ヶ崎南部にある「茅ヶ崎開高健記念館」と「茅ヶ崎ゆかりの人物館」、そして北部にある「県立茅ヶ崎里山公園」という都市資源やそこでの活動に注目し、ちがさき丸ごと博物館アクションプロジェクト・広報部会の記者が取材に行ってきました！

南部 茅ヶ崎市開高健記念館

「本がいっぱいあって楽しかった。またいろんな本を見に来ます。」
「数十年の念願が叶い、ある意味での私の中の闇が晴れました。」

ラチエン通り沿いにある茅ヶ崎市開高健記念館入口の来館者のノートを見ると、日本全国から、また海外からも多くの方が来館されていることがわかります。そして、上記のような開高氏に対するさまざまな「思い」が吐露されていて、開高氏が今なお多くの方から慕われていることがよくわかり、楽しく読ませていただきました。

今回、開高健記念館を案内していただいたのは、開高健記念会の森敬子さんです。この記念会は、開高氏の生前より開高氏を慕って集まっていた方々が、茅ヶ崎市が記念館を開館する時に運営を委託され、同時にNPO法人に、現在では公益財団法人となって企画展の開催、来館者への説明、グッズの販売等を行っています。平成15年の開館以来、当館は全国的に知られるようになっていますが、茅ヶ崎市民の方々の来館が少ないので、もっと茅ヶ崎の人にも来て欲しいとのことでした。

森さんに「森さんは開高健氏の作品の中でどの作品が好きですか？」というちょっと意地悪な質問をしました。私は、芥川賞受賞作の『裸の王様』や代表作といわれる『ベトナム戦記』『輝ける闇』等か、または「開高健氏が好き過ぎて一つの作品に絞れない」と答えられると思いましたが、「私の好きな作品は『珠玉』です。」と即答されました。「なぜなら、この作品は開高健の最後の作品であり、本人が刊行を躊躇して、刊行されたのは開高氏が亡くなった翌年だから」とのことでした。取材後、記念館にお礼方々ご挨拶に行ったら、森さんは目を輝かせて「ちょっと見てらっしゃい。ここに『珠玉』の自筆原稿と掲載された雑誌『文芸春秋』が展示されているよ！」と言われました。余程、思い入れのある作品なのだと感じると共に、是非読んでみたいという衝動に駆られました。(源)

▼開高氏の直筆の原稿なども展示されています



南部 茅ヶ崎ゆかりの人物館



▲森さんと内海さんに取材

茅ヶ崎ゆかりの人物館多目的館にて

開高健記念館の隣に「茅ヶ崎ゆかりの人物館」ができると聞いた時、「人物館」というものが全国的にも珍しい施設で非常に期待し、全国に先駆けてできることを誇らしく思ったことを思い出しました。ただ、私は、その「人物館」の設立趣旨、展示内容等が、今一つわからなかったため、今回、市担当課である文化生涯学習課の内海さんにお話を伺うことにしました。

茅ヶ崎ゆかりの人物館は、平成27年2月に開館しました。この館では、茅ヶ崎というまちがつくられていく過程の中で、市民や地域に影響を与えたり、深く関与したりしたと考えられる「ゆかりの人物」110名を選定し、それらの人物にスポットを当てた企画展を開催しています。また、それに関連する講演会や子ども向けのワークショップ等も随時開催しているとのことでした。今年の4月から9月までは開高健記念館と共通のテーマを共有した企画展「開高健・城山三郎二人展」を開催しております。これまでの取り組みを伺い、徐々に「茅ヶ崎ゆかりの人物館」の性格が見えてきました。

「10月14日からは、“東洋一のサナトリウム”といわれた南湖院と、その創始者である高田耕安にスポットを当てた企画展を開催する予定です」とのこと。どんな展示か今から楽しみです。まだまだ行ったことのない方もいらっしゃることでしょ。この機会に是非訪れてみてはいかがでしょうか。必ず新しい発見・出会いがあると思います。(源)



北部 県立茅ヶ崎里山公園 ~里山はっけん隊！~

皆さん、「谷戸」ってご存知ですか？丘陵地が浸食されて形成された谷状の地形で昔からその地形を利用して農林業が行われてきた場所のことです。茅ヶ崎市北部はそういった谷戸地形が多く、昔ながらの里山の自然が残されています。茅ヶ崎北部に位置する柳谷は大部分が県立茅ヶ崎里山公園に含まれる市内最大の谷戸で、市内で最も多くの動植物が確認されている地域です。



▲今年8月19日の里山はっけん隊！の様子

この里山公園を舞台に、家族で豊かな自然や動植物に親しみ、自然を守る大切さを学ぶ「里山はっけん隊！」事業が行われていて、それが8月19日に開催されたと聞き、市担当課である環境政策課の福岡さんにお話を伺ってきました。「里山はっけん隊！」では、午前「柳谷の自然に学ぶ会」の案内で自然観察を行い、午後発表会や体験教室等（8月19日はくす湯づくりと地域のお年寄りによる「昔の暮らし」についてのお話会等）を行う予定です。今期の「里山はっけん隊！」のテーマは「おもい」。発表会では、午前の自然観察で感じた自然に対する「おもい」を子どもたちが発表します。例えば、昆虫を“はっけん！”した子どもは「つかまっちゃった…！」と昆虫視点の「おもい」を発表しました。福岡さんによると「里山はっけん隊！」に参加した多



く子どもたちから、自然に対する理解や「自然を守ろう」という気持ちが生まれていると感じるとのことでした。福岡さんは「これからも子どもたちが自然について楽しく学べる企画を通じて、自然を好きになってもらい、子どもの『自然が好き』という気持ちを『自然を守る』という行動につなげていきたい」、「この活動が自然を『知って、考えて、守る』活動のきっかけとなってほしい」と展望を語ってくださいました。(板倉)

▲過去の発表会で子どもたちが作成した作品を見せていただきました。

今回は12月開催予定！
(問合せは環境政策課へ)

丸博活動報告

夏のカッパ大研究！

ちがさき丸ごと博物館・子ども部会 × マム04 コラボ企画

8月7日（月）に、ハマミーナまなびプラザ体育室にて、市民団体マム04主催「夏のカッパ大研究！」が開催されました。企画・運営は、ちがさき丸ごと博物館アクションプロジェクト・子ども部会の市民ボランティアのメンバーです。市内の小学生とその保護者9組が集まり、子どもは“博士”保護者はその“助手”となって、茅ヶ崎に伝わるカッパの民話から茅ヶ崎の地名や歴史、自然について学び、カッパについて研究をしていきました。まずは茅ヶ崎に関するクイズでウォーミングアップ。全問正解した博士もいました！その後、ちがさき丸ごと博物館・子ども部会員が「カッパはいる派」「カッパはいない派」でそれぞれプレゼンテーション。博士と助手で「カッパはいる・いない」について考え、研究ノートを作り、自分の考えを発表しました。終了後、子どもたちは「もっと調べて、研究ノートを膨らませたい」と意気込んでいました。



ガイド研修スタート！



9月6日（水）、ガイド研修が始まりました！ちがさき丸ごと博物館講座（基礎編）の修了生の中から希望者8名が、12月に実際にまち歩きガイドをすることを目指して、研修を受けています。今回のテーマは「懐島を歩く」です。研修の企画運営・講師役を担当するのは、これまでたくさんのまち歩きガイドをしてきた、ちがさき丸ごと博物館アクションプロジェクト・ガイド部会の市民ボランティアのみなさん。まち歩きガイド本番12月13日（水）〈予定〉に向けて、これまでのノウハウを活かし、ちがさき丸ごと博物館の新たな担い手を育み、学び合っています。